

Canon Autoboy 180

使用説明書

取扱上のご注意

- 結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には必ず試し撮りを行い、カメラが正常に動作することを確認してください。
- カメラは精密電子機器です。落としたりショックを与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造にはなっていません。水滴や塩分が付いたときは、柔らかい清潔な布ですぐに拭きとってください。放置すると、修理不可能になることがあります。
- レンズ面には触らないでください。
- レンズ・ファインダー・フィルム室などにゴミがついたときは、市販のプロワーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。清掃にベンジンやシンナーなどの有機溶剤、および有機溶剤入りクリーナーを使用しないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、電池を抜き取り、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。

マークについて

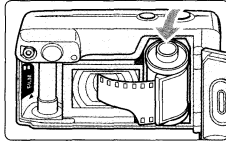
- ① 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書かれています。
- ② カメラの基本操作に加え知っておいていただきたい事項が書かれています。

フィルムを入れる・取り出す

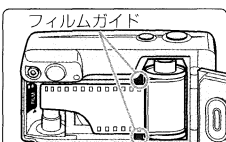
■フィルムを入れる

1 背ぶたを開け、フィルムを入れる

- 背ぶたは背ぶた開放レバーを押し下げた状態で開きます。

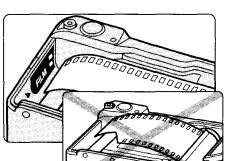


2 フィルムをフィルムガイドの間に正しくあわせる



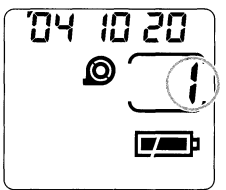
3 ① (フィルム先端位置マーク) の位置までフィルムを引き出す

- フィルムがたるまないように引き出します。
- フィルムを引き出しすぎたときは、パトローネ内に少し巻き戻します。



4 背ぶたを閉める

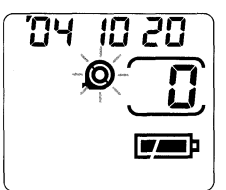
- 自動的にフィルムが1枚目まで送られ、フィルムカウンターに「1」が表示されます。
- フィルムカウンターの「0」が点滅するときは、フィルムが正しく送られていません。もう一度入れ直してください。



① DXマークのついたフィルム感度ISO4000のフィルムをおすすめします。DXマークのついていないフィルムは、ISO25にセットされます。DXマークのついていないフィルムは、フィルム室に入れ、背ぶたを閉じ、1~2回シャッターボタンを押して下さい。

■フィルムを取り出す

- フィルムは、最後まで撮り終わると自動的に巻き戻されます。巻き戻しが終了すると、フィルムカウンターが「0」になり、②マークが点滅しますので、背ぶたをあけフィルムを取り出します。
- ②マークが点滅していないときは②ボタンを押してください。



- ④ フィルムの規定枚数以上撮影すると、最後のコマが現像処理でカットされたり、日付や時刻の写し込みがされないことがあります。

電池をチェックする・交換する

■電池をチェックする

電源を入れたとき、表示パネルに④が表示されていることを確認します。④表示のときは、新しいCR2タイプリチウム電池と交換してください。

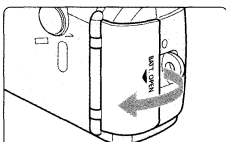
- ④ (点灯) 電池の容量は十分です。
- ④ (点灯) 新しい電池を用意してください。
- ④ (点滅) 新しい電池と交換してください。

新品電池の寿命は、24枚撮りフィルムで約14本(常温・ストロボ50%使用時/当社試験条件による)が目安です。低温(-10℃)での電池寿命は常温時の約1/3となります。

- ① ストロボ撮影を連続して行うと電池の能力が一時的に低下し、正しく表示されないことがあります。

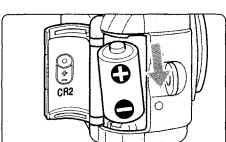
■電池を交換する

1 電池室ふたを開ける



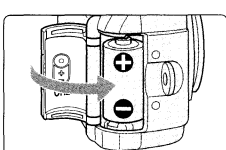
2 +-を正しくあわせ、電池の側から入れる

- 表示パネルに④が表示されます。



3 電池室ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで閉じます。
- 表示パネルの日付が「---」で点滅します。日付と時刻を設定します。



- ④ +-をまちがえるとカメラは動きません。

全自動(ストロボオート)で撮る

写したいものがワイドAFフレームにかかっていればピントが合います。また暗いところや逆光のときは、自動的にストロボが発光します。

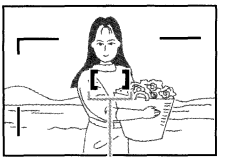
1 電源スイッチを押し、電源を入れる

2 写したいものの大きさを決める

- [L]を押すと望遠側に、[M]を押すと広角側にズームします。

3 ピントを合わせる

- 写したいものにワイドAFフレームを合わせ、シャッターボタンを軽く押しします。
- ピントが合うと緑ランプが点灯します。
- シャッターボタンは軽く押ししたままにします。

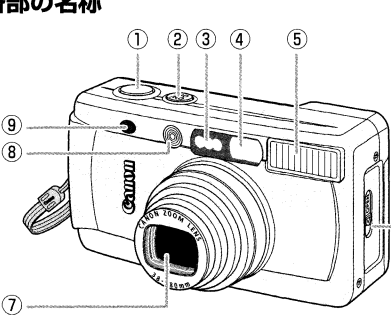


4 構図を決め、撮影する

- さらにシャッターボタンを押し込みます。
- ゆっくり、静かに押ししてください。

ワイドAFフレーム

■各部の名称



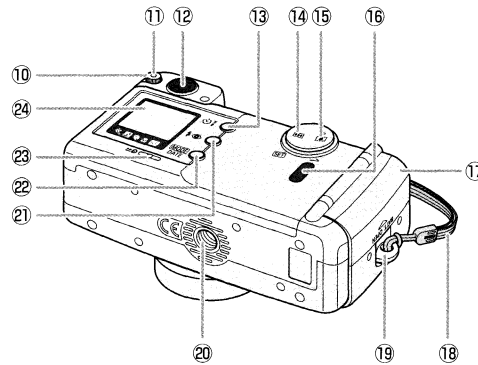
正面

- ① シャッターボタン
- ② 電源スイッチ

- 押すと電源が入り、撮影レンズが広角側にセットされます。再度押すと撮影レンズが収納され、電源が切れます。電源を切っても表示パネル上の表示は消えません。

- ③ AF測距部/測光部

- ピンボケの原因となりますので、汚れなどはきれいにふき取ってから撮影してください。
- ④ ファインダー窓
- ⑤ ストロボ発光部
- ⑥ 背ぶた開放レバー
- ⑦ 撮影レンズ



背面

- ⑧ 赤目緩和/セルフタイマーランプ/AF補助光投光部
- ⑨ リモコン受信部

背面

- ⑩ 視度調整つまみ

- ファインダーの像がはっきり見えるように回して調整します。

- ⑪ 緑ランプ
- ⑫ ファインダー接眼部

- ⑬ [S]セルフタイマー/リモコンボタン
- ⑭ [M]広角ズーム/選択ボタン
- ⑮ [L]望遠ズーム/設定ボタン
- ⑯ フィルム確認窓

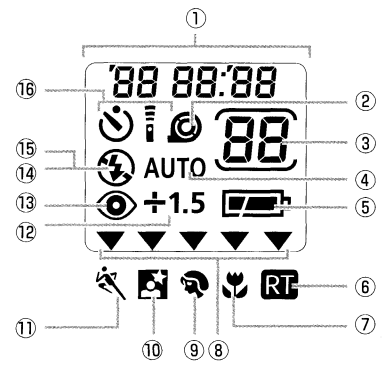
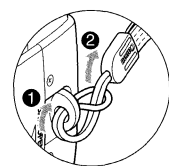
⑰電池室ふた

- ⑱ ストラップ
- ⑲ ストラップ取り付け部
- ⑳ 三脚ねじ穴

- ㉑ [M]ストロボモードボタン
- ㉒ [MOD]モードボタン
- ㉓ [ON]途中巻き戻しボタン

- 巻き戻しが始まるまでボタンを押し続けてください。
- ㉔ 表示パネル

ストラップの取り付け方



表示パネル (通常は必要な情報だけが表示されます)

- ① デート/カスタム機能
- ② フィルムマーク
- ③ フィルムカウンター
- ④ ストロボオート
- ⑤ バッテリーチェックマーク
- ⑥ リアルタイムレリーズ
- ⑦ クローズアップ
- ⑧ モード選択マーク
- ⑨ ポートレイト
- ⑩ 夜景ポートレイト
- ⑪ アクシオン
- ⑫ 手動露出補正
- ⑬ 赤目緩和マーク
- ⑭ [S]ストロボ常時発光
- ⑮ [ON]ストロボ発光禁止
- ⑯ セルフタイマー/リモコン

- ⑭ 「H」が表示されるときは、電池を一度取り出し、表示が消えてから入れ直してください。

MODE モードボタンを使って撮る

撮影モードを選ぶ

- [MODE]ボタンを押して、▼を④、⑤、⑥、⑦マークにあわせませす。

- ④、⑤、⑥は中央1点AFで、ワイドAFフレームの中央で撮影が行われます。

④ 動いているものを撮る

動きのあるものに連続してピントを合わせるサーボオートフォーカスと、連続撮影機能が設定されています。

- ④ ● 暗いときや逆光のときは、自動的にストロボが発光します。
- 動きの速い被写体には、ピントが合わない場合があります。
- 赤目緩和機能は設定できません。
- 緑ランプは点灯しません。
- 手ブレ警告は行われません。
- シャッターボタンを軽く押ししている間、約40秒間連続してピントを合わせつづけます。
- カスタム機能のリアルタイムレリーズ (CF1) に設定しても、リアルタイムレリーズは作動しません。

⑤ 夜景をバックに人物を撮る

夕暮れや夜景を背景にして人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影することができます。

- 撮影の手順は全自動と同じです。
- 赤目緩和機能がはたらきます。

- ④ ● ストロボモードを変えることはできません。
- 手ブレ警告は行われません。シャッター速度が遅く(最長約2秒)なりますので、必ずカメラを三脚などに固定してください。また、ストロボが光った後も、写される人がすぐに動かないようにしてください。

⑥ 人物をアップで撮る

背景をぼかして人物を浮き立たせるような撮影をしたいときに使用します。人物の上半身が入るように1~4.5mの範囲で自動的にズームインし、目に輝き(キャッチライト)が入るよう、常にストロボが発光します。

- 撮影の手順は全自動と同じです。
- 赤目緩和機能がはたらきます。

⑦ クローズアップで撮る

草花や昆虫などの小さなものを、近づいて撮影したいときに使用します。写したいものに約60cmまで近づいて撮影することができます。撮影距離範囲は約0.6m~∞です。

- 撮影手順は、近距離撮影を参照してください。

- ④ ● 撮影レンズは、自動的にズームインして固定されます。ズーム操作はできません。

RT シャッターチャンス逃さず撮る

シャッターボタンを軽く押ししてピントを合わせたあと、さらにシャッターボタンを押し込むと、瞬時に撮影できます。一瞬のシャッターチャンスをとらえるのに有効です。

- ④ ● シャッターボタンを一気に押し込んだ場合は、リアルタイムレリーズとなりません。

赤目緩和を効果的に行うには

暗い場所で人物をストロボ撮影すると、目が赤く輝いて写ることがあります。これを赤目現象と言い、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。赤目緩和機能がはたらくときは、ストロボが発光する前に赤目緩和ランプを約1秒間点灯させることで写る人のひとみ小さくし、赤目現象の発生を緩和します。

- ① 写したい人に2m程度まで近づくと。
- ② 声をかけてカメラを注視してもらおう。
- レンズを広角側にして撮影してください。
- 室内ではできるだけ明るくしてください。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。

- ④ ● 赤目緩和機能がはたらく時は、約1秒間(緑ランプが16回点滅)撮影できません。フィルム巻き上げ音がするまでシャッターボタンを押しつづけてください。

④ [M] ストロボモードを変える

写したいものや撮影場所にあわせて、ストロボを常に発光させたり、発光を止めたりすることができます。

モードを選ぶ

- [M] ボタンを押して、希望するモードのマークを選びます。

[M] AUTO 暗いところや逆光時には、ストロボが自動的に発光します。

ストロボ光が届く距離 (カラープリント用フィルム使用時)

フィルム感度	広角側	望遠側
ISO100	0.8~3.4m	1.0~2.2m
ISO400	0.8~6.8m	1.0~4.4m

- ④ ● 電源を入れたときのストロボオートを[M] AUTOにするか[AUTO]にするかを記憶させることができます。希望するストロボオートを設定して電源を切ってください。

- [M] AUTO ● 暗いところでは、赤目緩和ランプが点灯したあと、ストロボが自動的に発光します。

- [M] 常に発光 いつでもストロボが発光します。

- [M] 赤目緩和ランプが点灯したあと、いつでもストロボが発光します。

- [M] ストロボは発光しません。

- [M] +1.5 逆光時やスキー場など、写したいものの周辺が極端に明るいうちに、写したいものが暗く(露出アンダー)なるを防ぐことができます。

- [M] -1.5 スポットライト照明のステージなど、写したいものの周辺が極端に暗い場合に、写したいものが明るく(露出オーバー)なるを防ぐことができます。

- ④ ● 暗い場所での④、④+1.5、④-1.5はシャッター速度が遅くなります。手ブレ警告(緑ランプが1秒間に16回点滅)が行われたら、必ずカメラを三脚などに固定してください。

- ④ ● カメラの構えかたについて

- カメラが動かないように両手でしっかり構え、撮影レンズ、AF測距部/測光部、ストロボなどに髪や指、ストラップなどがつかないように注意してください。
- シャッターボタンについて

- シャッターボタンは2段階のスイッチになっています。軽く押すと自動的にピントと露出が決められ、さらに深く押すと撮影が行われます。

- 撮影レンズを繰り出したまま約4分放置すると、自動的に広角側になります。
- 暗い場所では、AF補助光が自動的に投光されます。

- ④ ● AFの苦手な被写体

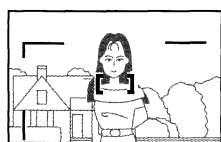
- 次のような被写体にはピントが合わない(緑ランプが1秒間に4回点滅)ことがあります。
- このようなときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロック撮影してください。
- [ピントが合いにくい主な被写体]
- コントラスト(明暗差)が極端に低い被写体…例: 青空、単色の平面など
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態や光の反射が強い被写体…例: 反射光の強い車のボディ
- 被写体が遠いところと近いところに共存する状態…例: おりの中の動物
- くりかえし模様のある被写体…例: 連続するビルの窓など

フォーカスロック撮影

ファインダーの端や望遠側で1.5m以内の近距離に写したいものがあるときはフォーカスロック撮影をします。

1 ピントを合わせる

- 写したいものにワイドAFフレームを合わせ、シャッターボタンを軽く押し、そのままの状態を保ちます。



2 構図を決め、撮影する

- 構図を決め、さらにシャッターボタンを押し込みます。

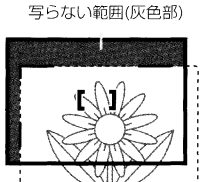


- ④ ● 写したいものとカメラの距離が変わらないように注意してください。距離が変わったときはやり直してください。

■近距離撮影

撮影距離が望遠側で1.5mより近い距離では、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲にズレが生じるため、近距離撮影範囲枠より外側は写りません。

ファインダーで見えても写らない範囲(灰色部)



実際に写る範囲(-----線内)

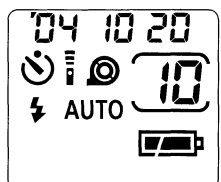
- ④ ● 緑ランプが点滅したら点滅しない距離まで離れて撮影してください。

④ [S] セルフタイマー/リモコン撮影

セルフタイマーを使うと、カメラを三脚などに固定した上で、離れてから撮影できます。また、リモコン撮影では、リモコンを使ってカメラの正面から約5mまで離れて撮影できます。

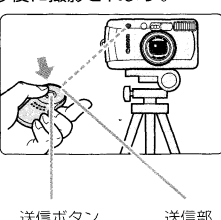
1 セルフタイマー/リモコン撮影にする

- [S] ボタンを押します。
- 表示パネルに④が表示されます。
- 再度[S] ボタンを押すと④表示が消え、セルフタイマー/リモコン撮影が解除されます。



2 撮影する

- セルフタイマー撮影を行うときは、構図を決めてシャッターボタンを押します。
- セルフタイマーランプが点滅し、約10秒後に撮影されます。
- リモコン撮影では、カメラのリモコン受信部にリモコンの送信部を向けて、送信ボタンを押します。
- セルフタイマーランプが点滅(4回/秒)して、約2秒後に撮影されます。



- ④ ● リモコン受信部に太陽の光が強くなっていたり、蛍光灯が近くにあると、リモコン撮影できなくなったり、誤動作することがあります。このときはセルフタイマーで撮影するか、カメラを移動してください。

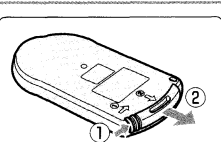
- ④ ● セルフタイマー/リモコン撮影は④が表示されている約4分間有効で、続けて撮影することができます。

■リモコンの電池交換

リモコン撮影が出来なくなったら新しい電池と交換します。使用電池: CR2032リチウム電池 1個

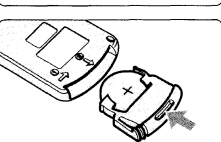
1 ホルダーを外す

- ①ホルダーの左側の爪を内側へ押しながら②引き出します。



2 電池を入れ替える

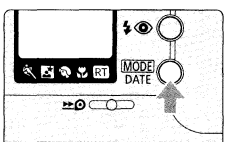
- +-を正しく合わせて電池を入れ換え、ホルダーを入れます。



日付・時刻を入れる

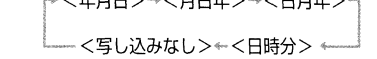
1 デートモードにする

- 電源を切った状態で、[MODE]ボタンを押します。



2 日付・時刻の組みあわせを選ぶ

- [L]ボタンを押し、日付・時刻の組みあわせを選びます。
- 表示は以下のように循環します。



- [MODE]ボタンを押すと、電源を切った時の状態に戻ります。



■日付・時刻の設定

電池を交換したときや海外旅行などで日付・時刻を設定・修正するときには次の手順で行います。

1 デートモードにする

- 日付の設定

- 2 [M] ボタンを2秒以上押し、日付・時刻設定モードにする

- 3 [M] ボタンを押し、設定位置(数字の点滅)を選ぶ

- 設定位置は、年-月-日-時-分-:の順に変わります。

- 4 [L] ボタンを押し、数値を設定する

- 5 3、4を繰り返し、全ての日付・時刻を設定する

- [L] 点滅[L] ボタンを押したときがゼロ秒となります。

- 6 設定を完了する

- [M] ボタンを押して [L] が点滅しなくなれば、日付・時刻の設定は完了です。
- [MODE]ボタンを押すと、電源を切った時の状態に戻ります。

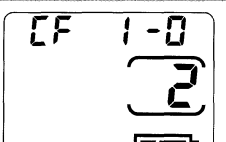
- ④ ● [L] ボタンは1回押すと1つ進み、押し続けていると連続送りになります。

カスタム機能を設定する

撮影状況やお好みにあわせて、以下の機能を設定できます。

1 カスタム機能設定モードにする

- 電源を切った状態で、[CF] ボタンを押しながら[M] ボタンを押します。
- CF1-0が表示されます。



2 機能を選択する

- [L] ボタンを押すたびにカスタム機能No.は以下のように循環します。



3 機能を設定する

- [M] ボタンを押して設定表示を1(機能設定)にします。
- 再度押すと0(機能解除)になります。
- 電源を入ると設定が完了します。

- CF1 リアルタイムレリーズ
- シャッターチャンス逃さず撮るを参照してください。

- CF2 撮影モードとストロボモードの記憶
- 電源を切る直前の撮影モードとストロボモードを記憶します。撮影モードとストロボモードを常時固定したいときに便利です。

- CF3 自動巻き戻し禁止
- 撮影終了後、突然の巻き戻し音の発生が好ましくない状況のときに有効です。最後まで撮り終わるとフィルムカウンター数値と④が点滅します。②ボタン押しで巻き戻しを開始します。</